2026-11-13 終値時点 · 2026年第3四半期決算まで（2026-09-30、決算発表8-Kは2026-10-29、10-Qは2026-10-30提出）

アマゾン・ドット・コム AMZN

アマゾン： AWSは39%増収、過去12カ月のフリーキャッシュフローは−$42.4B、Anthropic上場で保有株の再評価へ

第3四半期の売上高は$201.9B、前年同期比12.1%増である（プライムデーが第2四半期に移ったため、会社によれば同影響を除くと約4ポイント高い）。営業利益は$28.1B、営業利益率13.9%は過去最高であり、AWS売上高は$46.0B、前年同期比39.3%増と約5年ぶりの高い伸びとなった（8-K、2026-10-29）。前回レポートと比べると、第3四半期の利益にはAnthropicの評価益が含まれていない（その他損益−$0.7B）。ただしAnthropic転換社債の公正価値は四半期中に約$48.3B増加し、純利益ではなくその他の包括利益に計上された（10-Q、2026-10-30）。キャッシュフローの負担は増している。四半期の設備投資は$77.3B、会社定義の過去12カ月フリーキャッシュフローは−$42.4B、長期債務の額面は$180.9B、契約上のコミットメント合計は$883.6Bに達した。会社は2027年の設備投資がさらに大きく増加すると見込んでいる。第1–3四半期のAnthropic評価益を除くと今期PERは約33.2倍（推定）で、同業中央値26.2倍を上回る。Anthropicは2026-11-19に上場を予定しており、第4四半期のGAAP利益に再び多額の営業外損益が生じる可能性がある（推測）。

レーティング · 12カ月 · 対 S&P 500	株価	時価総額	1年騰落率
中立 2026-11-17 確定 · レーティングの定義	$266.66 2026-11-13 終値	$2.88T Consumer Cyclical	+12.2% 年初来 +15.5%
今期予想PER	**次回決算**		
20.8x EPS 12.80（コンセンサス平均）	2026-10-30 yfinance カレンダー		

01

マーケット環境

2026-11-13時点で、S&P500は年初来+10.5%、1カ月−2.0%、3カ月−2.9%である。ナスダック総合指数は1カ月−5.8%と、ハイテク比率の高い指数ほど調整が大きい。一般消費財セクターETF（XLY）は1カ月+7.6%、年初来+1.1%である。当社株は1カ月+5.0%、年

初来+15.5%で、S&P500に対する超過リターンは3M +4.4%、6M −1.1%、1Y +0.0%、YTD +5.1%である。

金利は高水準が続いている。米10年国債利回りは5.15%（1カ月で−3.6bp）、ドル指数は103.5（1カ月で+1.7）である。10月CPIは前月比+0.4%と予想を上回り、市場は12月の25bp利上げを約9割織り込んでいる。VIXは20.0である。当社株の1年ベータは1.33、S&P500との相関係数は0.54である。

当社株への波及経路は次のとおりである。①長期金利が5%前後で推移することで、デュレーションの長いグロース株の割引率が上がり、新規社債のクーポンも上昇する（9月のポンド建て社債のクーポンは5.20%–6.65%）。②11月第1週にはAIインフラの資金調達に対する懸念からハイテク株が調整した。当社は設備投資額と社債発行額が同業上位であり、この地合いの影響を受けやすい。③消費者信頼感の弱さは年末商戦の小売に影響するが、第3四半期の北米セグメント営業利益率は7.7%に上昇した。

指数とセクター

	直近	1週間	1カ月	3カ月	年初来	1年
S&P 500	7,561.67	+2.5%	-2.0%	-2.9%	+10.5%	+12.2%
ナスダック総合	25,136.27	+2.3%	-5.8%	-6.0%	+8.2%	+9.9%
ダウ工業株30種	52,347.55	+2.1%	+1.4%	-2.6%	+8.9%	+10.3%
ラッセル2000	2,790.49	+1.3%	+2.2%	-9.1%	+12.4%	+17.1%
Consumer Cyclical セクター ETF	119.98	+2.0%	+7.6%	+1.7%	+1.1%	+4.3%
AMZN	**266.66**	**+2.8%**	**+5.0%**	**+1.5%**	**+15.5%**	**+12.2%**

金利・ボラティリティ・相対パフォーマンス

VIX 指数 20.01 1カ月 +0.02	米10年債利回り 5.15% 1カ月 -4bp	ドル指数 103.54 1カ月 +1.70	対 S&P ベータ 1.33 1年相関係数 0.54	3カ月の超過リターン +4.4% 対 S&P 500
1年の超過リターン +0.0% 対 S&P 500				

マクロ・市場イベント

日付	イベント	当該銘柄への影響	出典
2026-11-10	米10月CPIは前月比+0.4%と予想の0.3%を上回った。同日に米10年国債利回りは14bp上昇して5.00%、2年債は19bp上昇して4.738%となった。CME FedWatchでは12月の25bp利上げ確率が90.5%、50bpが9.5%となった	インフレの上振れ → 12月利上げ観測の強まり → 長期金利の上昇により、高バリュエーションのグロース株の評価倍率が圧縮され、当社の今後の社債調達コストも上昇する。第3四半期の支払利息はすでに$1.7B（前年同期$0.5B）に増加している。	TheStreet（Yahoo Finance 転載）

日付	イベント	当該銘柄への影響	出典
2026-10-29	FOMCは10対2でFF金利の誘導目標レンジを3.75%–4.00%に据え置いた（9月に25bp利上げ）。次回会合は12月8–9日であり、ウォラー理事は50bp利上げの検討を公に支持した	金融政策は引き締め局面にある → バリュエーションと資金調達の双方に下押し圧力がかかる。当社は年初来で長期債務を約$112B（額面）増やしており、金利の経路は利払い負担とフリーキャッシュフロー黒字化の時期に直接影響する。	TheStreet（Yahoo Finance 転載）
2026-11-06	11-06までの1週間でS&P500は2.7%、ナスダックは3.4%下落し（market_weeklyデータ）、VIXは25を超えた。LPL Researchは下落の要因をAI関連の資金調達とデータセンター建設への懸念としている（原文は閲覧できず、検索結果の要約に基づく）	AI設備投資の資金調達の持続性への疑問 → 設備投資負担が大きくフリーキャッシュフローがマイナスのハイパースケーラーのバリュエーションに下押し圧力。ただし当社株は同週に約7.9%上昇し（11-04に+6.1%、要因は確認できず）、翌週にはS&P500も2.5%反発した。	LPL Research
2026-11-11	AnthropicがIPO条件を公表した。仮条件は$70–$78、売出し・募集株数は8.25億株で調達額は最大$64.4B、加えてコーナーストーン投資家向けに$26Bの私募を行う。仮条件上限での完全希薄化後評価額は約$1.4Tで、11-19にナスダック上場予定（ティッカーANT）	評価の基準が未上場の資金調達ラウンドから市場価格に切り替わる → 当社が保有するAnthropic優先株と転換社債は上場価格に基づき再測定される → 第4四半期のGAAP利益とその他の包括利益が大きく変動する可能性がある（推測、決算検証の項を参照）。	The Next Web

02

個別イベント

2026-11-15

悪材料 ニュース

ULAのVulcanロケット打上げ失敗でAmazon Leo衛星40基を喪失

当社が購入した38回のVulcan打上げの初回であり、成功すれば打上げ済み衛星は約396基から436基に増える予定であった。コンステレーション完成には3,300基以上が必要である。Vulcanの飛行停止期間は未定で、Blue OriginのNew Glennも飛行再開に至っておらず、Leoの展開ペースは鈍化する可能性がある。衛星の価値と保険の状況は開示されておらず、財務上の損失は確認できず。

出典： Spaceflight Now

2026-11-11

未確定 ニュース

Anthropicが仮条件$70–$78を公表、11-19上場予定

10-Qによれば、当社は議決権のない優先株1.64億株（1株を普通株10株に転換可能）と、12%の持株上限を考慮しない場合に優先株約1.84億株に転換可能な転換社債を保有する。仮条件で計算すると、優先株は$114.8B–$127.9Bで帳簿価額$92.5Bを上回り、転換社債は$128.8B–$143.5Bで公正価値$146.2Bを下回る（推定、持株上限、ロックアップ、株式クラスの差は考慮せず）。上場後の損益影響の方向と規模は転換比率に左右され、確認できず。

出典：The Next Web

2026-10-30

悪材料 レーティング

決算後に複数の証券会社が目標株価を引き下げ

レーティングは据え置かれたが、目標株価の多くは引き下げられた。Cantor Fitzgerald $310→$280、Citizens $315→$275、Scotiabank $325→$300、Wedbush $310→$298、モルガン・スタンレー $350→$335、TD Cowen $350→$340であり、UBSは10-31に$352へ引き上げた。yfinanceがまとめた目標株価の中央値は$328で、現在値を23.0%上回る。当社株の終値は10-29に4.2%、10-30に1.4%下落した。

出典：yfinance 评级变动

2026-10-30

未確定 決算

10-Q：Anthropic転換社債の公正価値は$146.2Bに増加、OpenAIへの$50.0B投資は全額払込み完了

Anthropic優先株の帳簿価額は$92.5B（四半期中はほぼ調整なし）である一方、転換社債の公正価値は6月末の約$97.9Bから$146.2Bに増加し、その他の包括利益累計額に含まれる未実現利益は$140.3Bとなった。第3四半期にOpenAIへの残りのコミットメント$21.3Bを払い込み、シリーズC優先株は合計$50.0Bとなった。株式、ワラント、転換社債への投資は合計$298.8Bで、時価総額の約10.4%（推定）に相当する。

出典：10-Q（2026-10-30）

2026-10-29

悪材料 決算

設備投資：第3四半期$77.3B、過去12カ月のフリーキャッシュフロー−$42.4B、2027年は大幅増の見通し

第3四半期の有形固定資産の取得は$77.3B（前年同期$35.1B）で、会社定義の過去12カ月フリーキャッシュフローは第2四半期末の−$7.6Bから−$42.4Bに悪化した。会社は2026年の現金ベース設備投資を約$220Bとする見通しを維持しており、第1–3四半期で$172.2Bを支出済みのため、第4四半期は約$47.8B（推定）となる。10-Qでは、2027年の現金ベース設備投資は主に技術インフラ向けに大幅に増加するとしている。

出典：10-Q（2026-10-30）

2026-10-29

中立 8-K

第4四半期ガイダンス：売上高$240.0B–$247.0B、営業利益$28.5B–$33.5B

売上高成長率のガイダンスは12%–16%で、中央値$243.5Bはyfinanceがまとめたコンセンサス$244.9Bをやや下回る。営業利益の中央値$31.0Bは前年同期の$25.0Bを上回る。会社は第4四半期の広告収入の伸びが10%台後半に戻ると見込んでいる（第3四半期は為替影響除きで+12%、プライムデーの時期の影響を受けた）。ガイダンスはエネルギー・デリバティブ再測定の影響をゼロと仮定している。

出典：8-K（2026-10-29）

2026-10-29

好材料 決算

第3四半期決算：AWSは39.3%増収、営業利益$28.1Bはガイダンス上限を上回る

売上高$201.9B（+12.1%）はコンセンサス$202.3Bをわずかに下回った。営業利益$28.1Bは$22.5B–$26.5Bのガイダンス上限を$1.6B上回った。AWS売上高は$46.0B（+39.3%）、営業利益率38.7%であり、北米セグメントの営業利益率は7.7%（前年同期4.5%）である。GAAP EPS $1.89はコンセンサス$1.96を約3.5%下回ったが、主因は営業外損益–$1.2B（うち支払利息$1.7B）である。前年同期の営業利益は$2.9Bのその他営業費用（訴訟和解や資産減損等、当期は$0.1B）により押し下げられており、前年同期比+61%の伸びはその分高めに出ている。

出典：8-K（2026-10-29）

2026-09-14

中立 8-K

£4.3Bのポンド建て社債を発行、第3四半期の長期債務調達は合計$48.1B

第3四半期には、7月の$25.0Bのドル建て社債（クーポン4.20%–6.25%、2029–2066年満期）、9月の£4.3Bのポンド建て社債（約$5.6B、クーポン5.20%–6.65%）を発行し、$17.5Bのタームローンを実行した（前回レポートでは確認できず、10-Qで全額実行済みと確認）。長期債務の額面は2025年末の$68.8Bから$180.9Bに増加した。

赤は好材料、緑は悪材料（中国式の配色）、左色は中立、青は影響未確定を示す。

出典：8-K（2026-09-14）；10-Q（2026-10-30）

過去90日のアナリスト・レーティング変更（25件、直近12件を表示）

2026-08-31

悪材料 会社開示

日付	機関	アクション	レーティング	目標株価
2026-11-03	Freedom Broker	main	Buy → Buy	255 → 330
2026-10-31	UBS	main	Buy → Buy	348 → 352
2026-10-30	Scotiabank	main	Sector Outperform → Sector Outperform	325 → 300
2026-10-30	Telsey Advisory Group	main	Outperform → Outperform	335 → 335
2026-10-30	DA Davidson	main	Neutral → Neutral	250 → 250
2026-10-30	Rosenblatt	main	Buy → Buy	360 → 360
2026-10-30	Wells Fargo	main	Overweight → Overweight	329 → 326
2026-10-30	TD Cowen	main	Buy → Buy	350 → 340
2026-10-30	Wedbush	main	Outperform → Outperform	310 → 298
2026-10-30	Morgan Stanley	main	Overweight → Overweight	350 → 335
2026-10-30	RBC Capital	reit	Outperform → Outperform	330 → 330
2026-10-30	StoneX	main	Buy → Buy	400 → 380

yfinance の集計値であり、個別には検証していない。up は引き上げ、down は引き下げ、main は据え置き、init は新規カバレッジ、reit は再表明を示す。

03

レーティングとスコアカード

当社レーティング

中立　今後12カ月のトータルリターンが S&P 500 と±10ポイント以内と予想 · スコアカード加重点 3.25

加重スコアは3.25（ファンダメンタルズ5、バリュエーション2、モメンタム3、決算の質3、リスク3）で、中立の区分（2.4–3.6）に該当する。すなわち、今後12カ月のトータルリターンはS&P500との差が±10ポイント以内と予想する。

主な上振れ要因：AWSの成長率は39.3%に加速し、経営陣は2027年と2028年にいずれも40%超の成長を見込み、残存履行義務は$578Bである。小売セグメントの営業利益率は改善している。Anthropicの上場により、帳簿価額$238.7Bの保有株に市場価格が付く可能性がある。

主な下振れ要因：過去12カ月のフリーキャッシュフローは−$42.4Bで、2027年の設備投資は大幅に増加する見通しであり、資金調達は新規借入に依存している。投資評価益を除く今期PERは約33.2倍（推定）で同業中央値を上回る。上場後のAnthropic株は時価評価され、株価変動が損益計算書に直接反映される。

評価が変わる条件：フリーキャッシュフローが黒字に戻る、または投資評価益を除くPERが同業中央値近辺（約29倍以下）まで低下し、かつAWSの成長率が35%以上を維持する場合、スコアは買いの区分に上がり得る。AWSの成長率が30%を下回る、営業利益がガイダンスレンジを下回る、または上場後のAnthropic株価が帳簿価額を下回り多額の減損が生じる場合、スコアは低下する。

レーティングは公開情報に基づくリサーチ上の見解であり、特定の個人の資産状況を前提としたものではない。ルールと分布については次を参照： レーティングの定義

ファンダメンタルズ	バリュエーション	モメンタム	決算の質	リスク
5 / 5	2 / 5	3 / 5	3 / 5	3 / 5

リスクの点数は高いほどリスクが低いことを示す。5項目の加重点から推奨レーティングを算出し、発行者の確認を経て確定する。

採点の根拠

ファンダメンタルズ
5 / 5

基準は4点（過去12カ月の売上高成長率15.4%、10–20%の区分）であり、営業利益率が4四半期連続で上昇した（9.7% → 11.7% → 13.1% → 13.7% → 13.9%）ため1点加算した。第3四半期の成長率12.1%は第2四半期の19.6%を下回るが、主因はプライムデーの時期の移動である。第2・第3四半期合計の成長率は15.7%で過去12カ月と同水準であり、明確な減速とはみなさない。AWSの成長率は5四半期連続で加速して39.3%となり、残存履行義務は$578B（6月末約$496B）である（10-Q、2026-10-30）。

過去12カ月売上高+15.4%、第3四半期+12.1%（プライムデー影響除き約+16%）、営業利益率13.9%、AWS +39.3%

バリュエーション
2 / 5

yfinanceの今期PER 20.8倍の基礎である0y EPS $12.80には、第1–3四半期のAnthropic税引後利益約$4.78/株（税引前$67.3B、一時的税金費用$15.2B控除後）が含まれる。これを除くと今期EPSは約$8.02、PERは約33.2倍（推定）で、同業中央値26.2倍を約27%上回り、2点の区分に該当する。来期EPS $10.69ではEPS成長率約33%、PEGは約1.0で、1段階引き上げの条件を満たさない。同業内で小売とプラットフォーム企業のバリュエーション差が大きく、GOOGLとMETAの予想EPSは同様の調整をしていないため、この項目の確度は低めである。

評価益除き今期PER約33.2倍（推定）、同業中央値26.2倍、PEG約1.0

モメンタム
3 / 5

S&P500に対する超過リターンはまちまちである。3M +4.4%、YTD +5.1%に対し、6M −1.1%、1Y +0.0%であり、大半の期間で上回るという4点の条件を満たさない。株価は50日移動平均を4.6%、200日移動平均を9.0%上回り、1年の最大ドローダウンは−19.6%で、トレンドは崩れていない。

超過リターン3M +4.4%、6M −1.1%、1Y +0.0%、YTD +5.1%、200日移動平均比+9.0%

決算の質
3 / 5

5点から2点減点した。①過去12カ月の営業外利益$69.8Bは税引前利益$174.2Bの40.1%を占め、25%を超えるため2点減点する。主な中身はAnthropic優先株の観察可能な価格による調整と、社債転換時の組替えであり、未実現利益である（10-Q、2026-10-30）。第3四半期単独の営業外損益は−$1.2Bで、当期利益にはこの種の利益は含まれない。②フリーキャッシュフロー/純利益はマイナスだが、会社はAI関連の設備投資を理由として説明しており、減点しない。③売掛金及びその他は$98.2Bで前年同期比+60.6%と、売上高の+12.1%を上回る。10-Qでは増加の主因が仕入先債権（$15.9B → $28.8B）と顧客債権（$40.4B → $52.6B）であることが示されているが、支払条件の延長や顧客向け融資によるものとは説明されていないため、今回は減点しない（前回は減点）。後の開示でそうした要因が確認されれば1点減点する。当社は調整後EPSを公表しておらず、non-GAAP定義の変更はない。

営業外利益/税引前利益：過去12カ月40.1%、第3四半期−4.5%。過去12カ月フリーキャッシュフロー−$42.4B。売掛金回転日数約44日（推定、前年同期31日）

リスク
3 / 5

5点から2点減点した。①未開始のリース$164.9B、有形固定資産の購入コミットメント$159.6B、無条件購入義務$94.8Bの合計$419.3Bは、時価総額の約14.5%、過去12カ月営業キャッシュフローの2.5倍であり、1点減点する。契約上のコミットメント総額は$883.6B（6月末$650.0B）である。②FTCの広告オークション訴訟、反トラスト訴訟、Xockets特許調査はまだ定量化できず、上場後のAnthropic再測定による損益の規模も確認できないため、1点減点する。減点しない項目：1年ボラティリティ33.9%、最大ドローダウン−19.6%。純有利子負債（長期債務額面$180.9B − 現金及び有価証券$114.2B）/過去12カ月EBITDA $183.7Bは約0.4倍（推定）。10-Qでは売上高または売掛金の10%を超える単一顧客は開示されていないが、OpenAIとAnthropicはいずれも投資先であると同時にAWSの大型長期契約顧客である。

オフバランスのコミットメント$419.3B（時価総額の14.5%、営業キャッシュフローの2.5倍）、純有利子負債/EBITDA約0.4倍（推定）、ボラティリティ33.9%

コンセンサス

レーティング分布（62社）

強い買い 14　買い 45　保有 3　売り 0　強い売り 0



yfinance の集計（アナリスト60人、更新時期は不明）。分布を示すのみであり、目標株価を支持するものではない。

04

財務分析

四半期業績

四半期末	売上高	前期比	前年比	粗利率	営業利益率	純利益	希薄化後EPS	営業CF	フリーCF
2025-09-30	$180.2B	+7.4%	+13.4%	–	9.7%	$21.2B	1.95	$35.5B	$430M
2025-12-31	$213.4B	+18.4%	+13.6%	–	11.7%	$21.2B	–	$54.5B	$14.9B
2026-03-31	$181.5B	-14.9%	+16.6%	–	13.1%	$30.3B	2.78	$26.0B	$-18.2B
2026-06-30	$200.6B	+10.5%	+19.6%	–	13.7%	$62.6B	5.75	$45.4B	$-8.8B
2026-09-30	$201.9B	+0.7%	+12.1%	–	13.9%	$20.7B	1.89	$42.4B	$-34.8B

出典：SEC XBRL。フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー – 設備投資。第4四半期の EPS は XBRL で欠落することが多く、会社発表値を優先する。

バリュエーション

基準	EPS	PER
GAAP、直近12カ月	12.37	21.6x
調整後、直近12カ月（アナリスト基準）	12.37	21.6x
今期予想（0y）	12.80	20.8x
来期予想（+1y）	10.69	25.0x

バリュエーション表のPERはyfinanceベースで、Anthropicの未実現利益を含む。検証後の数値では、第1–3四半期のAnthropic評価益を除くと過去12カ月EPSは約$7.59（推定、2025年第4四半期は未調整）、過去12カ月PERは約35.1倍である。今期EPSは約$8.02（推定、第4四半期はコンセンサス$2.40）、PERは約33.2倍である。来期コンセンサスEPS $10.69のレンジは$9.03–$13.49と予想のばらつきが大きく、一部の予想にはAnthropic上場関連の利益が織り込まれている可能性があるが、確認できず。

第4四半期のGAAP利益には多額の営業外損益が生じる可能性がある。公開価格が$70–$78の範囲であれば、優先株は帳簿価額を$22.3B–$35.4B（推定）上回る。社債転換時には、その他の包括利益累計額に含まれる未実現利益の一部が利益に組み替えられる可能性がある。実際の金額は転換比率、持株上限、公正価値の測定方法に左右される（推測）。

現在の株価で算出。予想 EPS は yfinance が集計したアナリストのコンセンサス平均であり、調整後ベースである。

決算の要点

前回レポート（2026-10-06、第2四半期10-Qに基づく）からの主な変化

利益構成：第2四半期のその他損益$53.4Bは主にAnthropicの評価引上げであった。第3四半期のその他損益は−$0.7Bで、非上場企業株式の上方修正は$39Mにとどまる。Anthropicの価値増加は転換社債の公正価値（その他の包括利益）に反映されるようになった。

営業実績：AWSの成長率は36.8%から39.3%に、営業利益率は13.7%から13.9%に上昇した。連結売上高の成長率はプライムデーの時期の影響で19.6%から12.1%に低下した。

キャッシュフローと負債：過去12カ月フリーキャッシュフローは−$7.6Bから−$42.4Bに悪化し、長期債務の額面は$133.0Bから$180.9Bに、契約上のコミットメント合計は$650.0Bから$883.6Bに増加した。

前回の未確認事項の確認：$17.5Bのタームローンは全額実行済みである。

検証結果（重要度順）

第3四半期の利益にAnthropic評価益は含まれないが、第1–3四半期には税引前$67.3Bが含まれる。yfinanceの過去12カ月EPS $12.37と今期EPS $12.80はいずれもこの利益を含む。10-Qによれば、第1–3四半期の非上場企業株式の上方修正は$62.9B（うちAnthropic優先株が約$62.8B）、社債転換に伴うその他の包括利益からの組替えが$4.5Bであり、法人税等には主にAnthropic投資の上方修正に起因する一時的税金費用$15.2Bが含まれる（10-Q、2026-10-30）。これに基づくと、第1–3四半期の税引後利益は約$52.1B、1株当たり約$4.78（推定）であり、これを除いた第1–3四半期EPSは約$5.64（推定）である。

Anthropicの価値増加はその他の包括利益に計上されるようになった。転換社債の公正価値は2025年末の$45.8B、6月末の約$97.9Bから9月末には$146.2Bに増加し、未実現利益の累計$140.3Bがその他の包括利益累計額に計上されている。第3四半期の売却可能負債証券の未実現利益は税引後$36.0Bである（8-K、2026-10-29）。これらは損益計算書を経由しないが、社債が株式に転換される際に利益へ組み替えられる（第1–3四半期には$4.5Bを組替え）。

第3四半期EPSのコンセンサス未達は営業外項目による。営業利益$28.1Bはガイダンス上限を上回ったが、支払利息$1.7B（前年同期$0.5B）、市場性有価証券の評価損$0.7B、ワラントの評価損$0.3Bにより営業外損益は−$1.2Bとなり、GAAP EPS $1.89はコンセンサス$1.96を下回った。当社は調整後EPSを公表しておらず、コンセンサスはGAAPベースである（yfinanceのmethodology欄はgaap）。

フリーキャッシュフロー：会社定義の過去12カ月フリーキャッシュフローは−$42.4B = 営業キャッシュフロー$168.3B − 売却収入とインセンティブ控除後の有形固定資産の取得$210.7Bである。取得総額$215.2Bで計算すると−$46.9Bとなる。yfinanceの−$34.7Bは決算資料から再現できない。また、第1–3四半期には未払いの有形固定資産取得が$21.5B増加しており、設備投資の現金支出の一部が後の期間に繰り延べられている。

売掛金：$98.2B、前年同期比+60.6%、売掛金回転日数は約44日（推定、前年同期約31日）である。10-Qでは顧客債権$52.6B（期首$40.4B）、仕入先債権$28.8B（期首$15.9B）、その他債権$9.3B（期首$4.5B）に分けて開示されているが、増加の理由は個別に説明されていない。

基礎数値：売上高、営業利益、純利益、GAAP EPS、営業キャッシュフロー、売掛金、棚卸資産は四半期ごとにXBRLと一致する（yfinanceには2026-06-30の四半期列がない。訂正表を参照）。

繰延税金：第1–3四半期の繰延税金は$35.5Bで、現金納税額は$5.3Bである。その他の固定負債は$36.0Bから$99.9Bに増加した。会計上の税金費用と現金納税額の差は主に未実現の投資利益によるものとみられる（推測、10-Qでは内訳は示されていない）。

原資料のみに記載された事項

Anthropicへのエクスポージャー：議決権のない優先株1.64億株、帳簿価額$92.5B。転換社債の公正価値は$146.2Bで、12%の持株上限を考慮しなければ優先株約1.84億株に転換可

能である。合計約$238.7Bで時価総額の約8.3%（推定）に相当し、いずれもレベル3の公正価値測定である。IPO時には社債は持株上限の範囲でN種無議決権普通株に、優先株は1対10で無議決権普通株に転換され、ロックアップが適用される。残りの融資枠$15.0BはAnthropicの流動性イベントから30カ月後に失効する（10-Q、2026-10-30）。

OpenAIへの投資：シリーズC優先株は合計$50.0B（第1四半期$15.0B、第2四半期$13.7B、第3四半期$21.3B）で、取得原価から減損を控除し、観察可能な価格変動で調整する方法で測定している。AWSとOpenAIの契約は当初の$38.0Bに$100.0B（8年）が上乗せされ、Anthropicとの契約は$100.0B超（10年）拡大した。当社は両社の投資家であると同時に計算資源の供給者でもあり、両社の事業と資金調達の状況は、AWS売上高、投資評価、融資枠の利用に同時に影響する。

残存履行義務：約$578B、加重平均残存期間6.1年で、主にAWSである。

契約上のコミットメント$883.6B：長期債務の元利$294.3B、オペレーティング・リース$121.5B、未開始のリース$164.9B、有形固定資産の購入$159.6B、無条件購入義務$94.8Bなどで、このうち2027年に$124.3Bが期日を迎える。スタンドバイ信用状は$21.6B（前回$13.4B）で、主に購入コミットメントに関連する。

債務：長期債務の額面は$180.9Bで、$17.5Bのタームローンと2026年に発行した多通貨建て社債（米ドル、ユーロ、スイスフラン、カナダドル、英ポンド）を含む。社債の加重平均残存期間は13.9年、1年内返済予定は$6.8Bである。10-Qでは2026年にさらに資金調達を行うとしている。

エネルギー契約のデリバティブ：約6.9億MWh、加重平均残存期間は約18年で、公正価値の変動は「技術・インフラ」費用に計上される。第1–3四半期の未実現利益は$690M、第3四半期は$91Mで、営業利益に比べ規模は小さく、第4四半期ガイダンスではゼロと仮定している。

衛星打上げの前払金：前払費用にはLeoの打上げサービス前払金が含まれ、打上げ時に費用計上される。前払費用及びその他の流動資産は$7.5Bである。11-15の打上げ失敗の会計処理は開示されておらず、確認できず。

訴訟：FTCと22州による広告オークション訴訟、テキサス州の訴訟、2020年以降の複数の反トラスト訴訟、Xockets特許訴訟とITC調査があり、いずれも引当金や損失見込額は開示されていない。

データベンダー数値の訂正

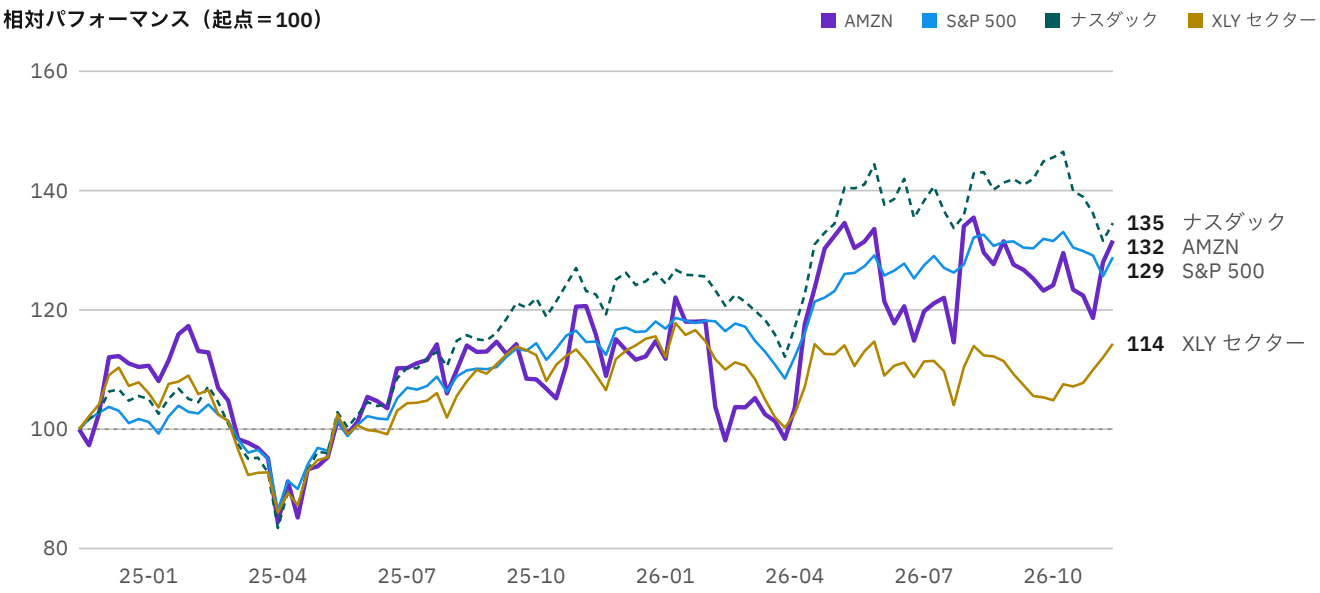
項目	yfinance	原資料（計算方法付き）
freeCashflow	−$34.7B	**−$42.4B** = 過去12カ月営業キャッシュフロー $168.3B − 売却収入とインセンティブ控除後の有形固定資産の取得$210.7B（8-K、2026-10-29）。取得総額$215.2Bでは−$46.9B
trailingPE	21.6倍（EPS $12.37）	過去12カ月EPSには第1–3四半期のAnthropic税引後利益約$4.78/株（推定）が含まれる。除外後は約$7.59で、PERは約**35.1倍**（推定）
forwardPE / 今期PER	forwardPE 24.4倍、今期20.8倍	forwardPEはforwardEps $10.93を用いており、今期ではなく来期予想に近い。今期0y EPS $12.80はAnthropic評価益を含み、除外後は約$8.02、PERは約**33.2倍**（推定）

項目	yfinance	原資料（計算方法付き）
四半期売上高の前年同期比（yf_overview四半期表）	2026-09-30 rev_yoy +20.4%	yfinanceの四半期表には2026-06-30の列がなく、実際には2025-06-30と比較している。8-Kによれば、第3四半期売上高$201.9Bは前年同期$180.2Bから**12.1%**増加
第3四半期EPSのサプライズ	−3.5%（$1.89対$1.96）	数値は正しいが営業面を反映していない。営業利益$28.1Bはガイダンス上限$26.5Bを上回り、EPS未達は営業外損益−$1.2B（支払利息$1.7Bを含む）による（10-Q、2026-10-30）
totalDebt	$304.8B	リース負債を含む。長期債務の額面は**$180.9B**（うち1年内$6.8B）で、このほか長期リース負債$98.8Bなどがある（10-Q、2026-10-30）

05

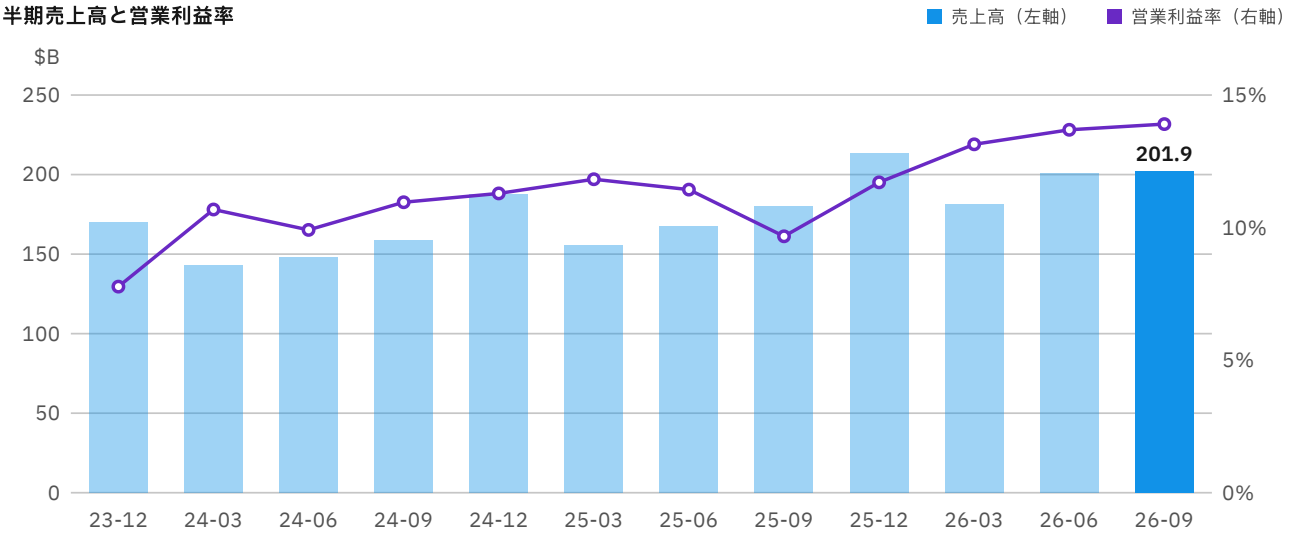
株価推移

相対パフォーマンス（起点＝100）



週次終値（調整後）、2024-11-17 を100として指数化。右端の数値は期末値。

四半期売上高と営業利益率



直近12四半期。出典：SEC XBRL。

06

同業比較

ティッカー	名称	時価総額	1カ月	年初来	1年	PER 実績	PER 今期	売上成長率	粗利率	営業利益率
AMZN	**Amazon.com, Inc.**	**$2.88T**	**+5.0%**	**+15.5%**	**+12.2%**	**21.6x**	**20.8x**	**+12.1%**	**51.4%**	**13.1%**
MSFT	Microsoft Corporation	$3.89T	-1.8%	+9.0%	+4.9%	27.3x	26.2x	+18.8%	67.7%	47.1%
GOOGL	Alphabet Inc.	$3.64T	-14.9%	-5.3%	+6.5%	15.4x	15.1x	+24.7%	60.9%	33.3%
META	Meta Platforms, Inc.	$1.64T	-13.0%	-2.5%	+5.6%	21.9x	22.1x	+26.1%	81.0%	37.8%
WMT	Walmart Inc.	$1.02T	+10.3%	+15.7%	+26.0%	46.4x	44.4x	+5.9%	24.8%	3.9%
COST	Costco Wholesale Corporation	$490.2B	+12.8%	+29.0%	+20.3%	53.3x	48.4x	+11.1%	12.8%	3.8%
同業中央値		*$1.64T*	*-1.8%*	*+9.0%*	*+6.5%*	*27.3x*	*26.2x*	*+18.8%*	*60.9%*	*33.3%*

yfinance の集計値であり、決算書とは照合していない。今期PER＝株価÷今期（0y）予想 EPS とし、forwardPE が来期ベースとなる問題を回避している。同業の出典：--peers。中央値は当該銘柄を除く。

同業は前回と同じく、MSFT、GOOGL、META（プラットフォーム・クラウド事業）とWMT、COST（小売）である。両グループでは成長率、利益率、バリュエーションの差が大きく、比較結果の確度には限界がある。

バリュエーション：yfinanceの今期PERは20.8倍で同業中央値26.2倍を下回るが、Anthropic評価益を除くと約33.2倍（推定）となり、MSFT 26.2倍、META 22.1倍、GOOGL 15.1倍を上回り、WMT 44.4倍、COST 48.4倍を下回る。GOOGLとMETAの予想EPSは同様の調整をしていない。

成長性：第3四半期の売上高成長率12.1%はプライムデーの時期の影響を受けており、MSFT 18.8%、GOOGL 24.7%、META 26.1%を下回り、WMT 5.9%を上回り、COST 11.1%に近い。AWS単独では39.3%成長である。

利益率：営業利益率13.1%（yfinanceの過去12カ月ベース）は小売（3.8%–3.9%）とプラットフォーム企業（33.3%–47.1%）の間にあり、AWSセグメントの38.7%はプラットフォーム企業と同等である。

同業データはyfinanceの集計値であり、各社の決算資料とは照合していない。

07

スマートマネー

機関投資家・政治家の保有状況：追跡対象のうち 9 人が AMZN を保有

人物	データ	報告期間	評価額 / レンジ	ポートフォリオ比率	四半期の変化
チェイス・コールマン	13F 保有	2026-06-30	$2.3B	9.6%	一部売却
ビル・アックマン	13F 保有	2026-06-30	$2.0B	10.5%	一部売却
デビッド・テッパー	13F 保有	2026-06-30	$1.2B	15.4%	買い増し
セス・クラーマン	13F 保有	2026-06-30	$892M	16.5%	買い増し
ルネサンス・テクノロジーズ	13F 保有	2026-06-30	$546M	0.8%	新規
レイ・ダリオ	13F 保有	2026-06-30	$483M	2.0%	一部売却
キャシー・ウッド	13F 保有	2026-06-30	$379M	2.5%	買い増し
ジョージ・ソロス	13F 保有	2026-06-30	$282M	3.5%	一部売却
スタンレー・ドラッケンミラー	13F 保有	2026-06-30	$129M	2.5%	買い増し

人物	日付	取引	金額レンジ
ナンシー・ペロシ	2026-01-16	買い	$500,001 – $1M
ナンシー・ペロシ	2025-12-30	買い	$100,001 – $250,000
ナンシー・ペロシ	2025-12-24	一部売却	$1M – $5M

各追跡対象の最新の公開済み 13F、インサイダー報告、資産公開に基づく。13F には約45日の遅れがある。 スマートマネー →

08

今後の注目事項

2026-11-19

Anthropicのナスダック上場予定（ティッカーANT）

公開価格が仮条件$70–$78のどこに決まるか。上場後の株価と当社の帳簿価額（優先株は普通株換算で約$56.4、転換社債は約$79.5、推定）との差。当社が転換比率とロックアップの条件を開示するか。

2026-11-27 / 2026-11-30

ブラックフライデーとサイバーマンデー

年末商戦の小売と広告収入が、第4四半期売上高ガイダンス$240.0B–$247.0Bと広告収入の伸びの10%台後半への回復を支えられるか。

2026-12-09	**FOMCの政策決定（12月8–9日会合）**	25bpか50bpの利上げか。米10年国債利回りが5%を上回って推移するかどうかは、評価倍率と今後の社債調達コストに影響する。
2026 年 12 月初	**AWS re:Invent**	Trainium新製品と供給能力の進捗、AIサービスの価格、大口顧客との長期契約。具体的な日程はAWSの発表による。
2026 年 12 月起	**ULA Vulcan事故調査とAmazon Leoの展開**	Vulcanの飛行再開時期、代替の打上げ能力、会社の説明どおりLeoの商用サービスを年内に開始できるか、打上げ失敗に関連する費用の計上。
2027 年 2 月初（估）	**2026年第4四半期・通期決算（日程未公表）**	AWSの成長率が40%を超えるか。営業利益が$28.5B–$33.5Bのガイダンス上半分に入るか。通期設備投資が約$220Bとなるかと2027年の設備投資見通し。Anthropic上場に伴う再測定と組替えによる損益。フリーキャッシュフローと新規借入。

本レポートはリサーチ目的の参考資料であり、投資助言ではない。

出典

株価・アナリストデータ：yfinance + SEC EDGAR、2026-11-13 終値時点（遅延あり）。財務データ：SEC EDGAR（XBRL と原資料）。マクロ・ニュースは各項目のリンク先を参照。配色は赤が上昇、緑が下落。

SEC EDGAR：10-Q（2026-10-30）、8-K決算発表（2026-10-29）、8-K社債発行（2026-07-09、2026-09-14）

TheStreet（Yahoo Finance転載、2026-11-10）： 10月CPI、FOMC、利上げ確率

The Next Web（2026-11-11）： AnthropicのIPO条件

Spaceflight Now（2026-11-15）： Vulcan打上げ失敗

Constellation Research（2026-10-29）： 第3四半期のコンセンサスと決算説明会での発言

LPL Research（2026-11-06の週次レポート、原文は閲覧できず、検索結果の要約に基づく）

株価、同業、コンセンサス、レーティング変更はyfinanceによる2026-11-13終値時点のデータで、遅延がある

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。